

令和2年度第2回横浜市市民協働推進センター事業部会 会議録

議 題	1 市民協働の提案事業「広域大規模災害時におけるNPO等と行政、社協の連携体制構築」の選定について				
日 時	令和2年10月13日(火) 18時00分から21時00分まで				
開催場所	横浜市市民協働推進センター スペースAB				
出席委員	鈴木伸治部会長、林重克委員、田辺由美子専門委員、永岡鉄平専門委員、吉武美保子専門委員				
欠席委員	なし				
開催形態	一部非公開(傍聴者0)				
議事・ 決定事項	<p>1 開会</p> <p>2 市民協働の提案事業「広域大規模災害時におけるNPO等と行政、社協の連携体制構築」の選定について【非公開】</p> <p>別表1 市民協働の提案事業「広域大規模災害時におけるNPO等と行政、社協の連携体制構築」提案審査結果</p> <table border="1" data-bbox="459 902 1410 1037"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>点数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ(準備会議)</td> <td>72.20</td> </tr> </tbody> </table> <p>※詳細は、別紙(第6号様式)のとおり</p>	団体名	点数	災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ(準備会議)	72.20
団体名	点数				
災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ(準備会議)	72.20				
資 料	(1)横浜市市民協働条例、(2)横浜市市民協働条例施行規則、(3)横浜市市民協働推進委員会部会運営要領、(4)横浜市市民協働推進センター事業部会 委員名簿、(5)市民協働事業の提案支援実施要綱、(6)市民協働事業の提案支援審査要領、(7)市民協働事業の提案 募集要項(抜粋)、(8)市民協働事業の提案支援審査にあたっての考え方及び提案書審査ポイント、(9)市民協働の提案事業 事業者公募プレゼンテーション 採点用紙、(10)市民協働提案事業提案書類(広域大規模災害時におけるNPO等と行政、社協の連携体制構築)				
特記事項	なし				

(第6号様式)

災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ（準備会議）

共同代表 伊藤朋子様

横浜市長 林 文子

市民協働事業審査結果通知書（提案支援事業）

横浜市市民協働推進委員会（横浜市市民協働推進センター事業部会）での審査をふまえ、結果を通知します。

提案事業名	広域大規模災害時におけるNPO等と行政、社協の連携体制構築
提案者	災害復興くらし応援・みんなのネットワークかながわ（準備会議）
採択の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 採択 <input type="checkbox"/> 不採択
点数	72.20 点

審査の結果、上記の通りの評価であり、提案団体は、採択基準（60点）に達している。

《横浜市市民協働推進センター事業部会の意見》

1 総評

災害時に地域や個人、行政、関係機関が連携することは、本当に重要であり、提案内容は、進め方次第でとてもポテンシャルを感じるものであった。このようなネットワークが形成・維持されれば、市民としてはより安心である。本事業を進めるにあたっては、既存の災害ボランティアネットワークとの連携や行政との役割分担が重要であることから、その点を丁寧に進めてほしい。大規模災害時の復興支援全体の中でのこの事業の立ち位置を意識しながら、横浜市内だけでなく、広域な連携も視野に入れ、被災者の多様なニーズに応えられるネットワーク構築を目指すと共に、災害時フェーズ毎のきめ細かい支援について注目し、その活動をより早く効率的に機能させられる

よう、具体的な検討を進めてほしい。

2 課題・意見

- ・行政や社会福祉協議会との役割分担が不明確である。
- ・ネットワークをどう形成していくか、具体的な方法論があまりなかった。
- ・各区で行政・社会福祉協議会・災害ボランティアの三者会議はすでに活動している。
また、提案の中で、自治会・町内会との連携が希薄。
- ・市全域や区単位でいきなり取り組むのは難しいのではないか。小さな地区レベルから「顔の見える関係」のモデル地区づくりをしてはどうか。
- ・復興支援全体の中で提案頂いたネットワークの役割をどう考えるかが、このプロジェクトの大きな課題である。
- ・キントーンは万人が使えるシステムかどうか疑問。ソーシャルメディアなどの広く使われているツールをうまく活用し、ネットワークを繋げていけるようなオープンな仕組みづくりを検討してほしい。
- ・関わる方々が使命感のみならず、楽しさ・やりがいを共有できるとより広がりを見せるのではないか。